小林陽太郎奨学金設立によせて

伊東 健
日本アスペン研究所常務理事

このたび、1998年の日本アスペン研究所の設立に際して中心的な役割を果たし、その後16年の長きに亙って当研究所の理事長を務めた故・小林陽太郎氏の栄誉を称え、氏の名を冠した奨学金制度を設立しました。

本奨学金は、産業界、官界、政界、NPO等のヤング・リーダー（30歳～50歳）を対象に、米国をはじめ世界に広がる各国のアスペン・パートナーが開催する各種プログラムに参加する機会と費用を提供するものです。現代が直面する様々な社会的・文化的な課題に向き合い、「よき社会」を築くためのリーダーシップを醸成することを目指します。プログラムはすべて英語で行われます。

奨学金の原資は、小林氏の長年の盟友である米国アスペン研究所国際委員会名誉会長のレナード・ローダー氏の個人的な寄付と、小林百代夫人の篤志、そして日本アスペン研究所のマッチングファンドから成り立っています。

米国の化粧品会社エスティ・ローダー社の名誉会長でもあるローダー氏は、富士ゼロックスの会長でもあった小林氏とアスペンの活動を通じて親交を持ちました。両氏は誕生日が２カ月しか違わず、また学んだ時期は異なるもののペンシルベニア大学ウォートンスクールの同窓という縁もあって、意気投合しました。さらに両氏ともに米国アスペン研究所の理事でもあったため、頻繁に会う機会があり、アスペン研究所が掲げる理念の実現に向けて、共に汗を流す間柄となりました。

2013年秋には、ローダー氏が音頭をとられて世界各国のアスペン研究所から多くの理事が来日し、当研究所の創立15周年を盛大に祝うことができました。

しかし小林氏はその翌年に体調がすぐれず理事長を退任、2015年９月に他界されました。

畏友を失ったローダー氏は、小林氏のアスペンに対する情熱とリーダーシップ、国際人としての類なき品格を称え、そして氏の遺志を次の世代に受け継いでもらいたいという願いから、故人の名を冠した奨学金制度の設立を提案され、百代夫人の賛同と篤志も頂戴して、小林陽太郎奨学金を設立しました。

ローダー氏は近年の日本が内向きになっていることを懸念されておられました。本奨学金が、小林氏のようにグローバルに活躍するリーダーになるための一助となることを心から願っております。受給者は選考の上、決定いたしますが、会員企業・団体はもとより各界のヤング・リーダーの積極的な応募を期待いたします。

小林陽太郎奨学金 概要

Ⅰ. 対象プログラム

〈プログラム１〉
米国および海外のアスペン研究所が各地で主催する「ソクラテス・プログラム」やその他のプログラム。
〈プログラム２〉
日本で年２回開催する米国アスペン研究所の「小林メモリアル・ソクラテス・プログラム」。
※ともに米国アスペン研究所から派遣されるモデレーターによる、英語のテクストを用いて英語で行う対話セミナーです。

Ⅱ. 対象となる応募者

産業界、官界、政界、NGO等で活躍中もしくは今後の活躍が期待されるヤング・リーダー（主に30歳～50歳）。

Ⅲ. 募集人数

〈プログラム１〉年間７～10名
〈プログラム２〉年間24名前後（各回12名前後）

Ⅳ. お問い合わせ、お申し込み

お申し込みや募集要項のご希望、お問い合わせにつきましては、下記までご連絡ください。
日本アスペン研究所「小林陽太郎奨学金」事務局
TEL：03-6438-9208
E-mail：scholarship@aspeninstitute.jp
（担当：坂本、千葉）

【2017年の対象プログラム開催予定】

〈プログラム１〉

2017年５月19日～21日	SOCRATES SPAIN｜RONDA,SPAIN
2017年５月25日～27日	SOCRATES KYIV｜KYIV, UKRAINE
2017年７月７日～10日	SUMMER SEMINARS｜ASPEN, CO
2017年12月	SOCRATES MEXICO｜PUEBLA, MEXICO
2018年２月	WINTER SEMINARS｜ASPEN, CO

〈プログラム２〉

2017年10月12日～15日	KOBAYASHI MEMORIAL SOCRATES SEMINAR I

開催地：滋賀県大津市
モデレーター：William Powers（MITメディアラボ教授）

講師、トピックなど最新の開催情報はこちらをご覧ください。
https://www.aspeninstitute.org/programs/

なお、本奨学金は当面３年間の運用となります。３年経過後については運用実績を踏まえた上で検討する予定です。

メキシコでのソクラテス・プログラムのアクティビティの一つとして聴講したシンポジウム「人工知能 vs 人間」

2016年11月、メキシコのプエブラ市で開かれたソクラテス・プログラム。アメリカ大陸最古の公共図書館、パラフォクシアナ図書館にて（写真提供：メキシコアスペン研究所）

2016年７月、米国アスペンで開催されたソクラテス･プログラムのレセプションの様子（写真提供：米国アスペン研究所）

現代の課題から人間的価値を見つめる「ソクラテス・プログラム」

小林陽太郎奨学金による派遣対象の一つである「ソクラテス・プログラム」は、米国アスペン研究所が国内外で展開し、すでに20年の歴史を持つセミナープログラムです。各界の若手リーダーとモデレーターが輪になり、共通のテクストを読み込んで対話するという形式は、日本のアスペン・セミナーと同じ。大きな違いは、使用言語が英語であること、様々な国の参加者がいること、そして何より、対話の題材でしょう。「ソクラテス」では、サイバー・セキュリティ、人工知能（AI）、デモクラシー、教育といった現代の課題について対話し、思索を深めます。テクストも数カ月から数年以内に発行された文献が中心で、各テーマに通じたモデレーター自らがセミナーごとにセレクトします。基本のスケジュールは、初日夜のレセプションから始まる３泊４日。３つの対話セッションと、講演や美術館訪問などのアクティビティで主に構成されています。

日本アスペン研究所のスタッフも、2016年の７月と11月、それぞれ米国アスペン、メキシコはプエブラでの「ソクラテス」に参加しました。その模様を紹介いたします。

＊

米国コロラド州アスペンで開催された「ソクラテス」では、「デジタル時代のデモクラシー」のセミナーに参加。モデレーターを務めたのは、「ソクラテス・プログラム」が始まった20年前からセミナーを担当し、米国アスペンのプログラムの一つ「コミュニケーション・アンド・ソサエティ・プログラム」のエグゼクティブ・ディレクターでもあるチャーリー・ファイアストン氏。情報通信技術（ICT）が民主主義の本質をどのように変容させるのか、そして、よりよい世界の構築のために私達はどのようにICTを活用していくべきかについて、様々な側面から考察し、対話を重ねました。セミナーには、米国に加え、メキシコ、日本、そして米国在住のモロッコ・中国・英国出身者も参加し、職業、年齢も多様な25名のメンバーが集まりました。

セッションでは、「アラブの春」でICTが民主化運動拡大に果たした役割、その一方でインターネット発達がもたらした「忘れられる権利」の問題など、いくつもの事例を踏まえた活発な対話が行われました。

加えて、民主主義に関する参加者の経験も共有されました。例えば、言論の自由については、ヘイトスピーチに関する発言により対話が展開。米国の参加者は、公には人種を含め個々人の尊重を掲げる米国の一流大学でさえ、実際には異なる状況があった経験を話し、また他の参加者は政府による検閲が当然のこととして実施されていた母国について語りました。どの発言に対しても、全員が真剣に耳を傾け、受け止め、対話が続きました。筆者自身、日本を離れ、国籍も背景も多様なメンバーとの対話に参加して、民主主義というものを切実に捉える機会になったとともに、日本では筆者を含めかなり多くの人が身近な満足や幸せを求め、民主主義といった大きく大事な問題をどこか他人事あるいは政治任せにしてしまっているのではないかと反省しました。

米国での「ソクラテス」は５つのセミナーが同時開催されており、昼食、夕食は総勢120名を超える参加者や講師が一堂に会しての交流の場となりました。また５分間で次々に異なる人と自己紹介する「スピード・ネットワーキング」というユニークな自由参加プログラムも用意され、多くの参加者と交流を図ることができました。

かわって、メキシコでのセミナーは、米国大統領選の衝撃冷めやらぬ2016年11月半ばに行われました。テーマは「デジタル・エコノミーにおける仕事の未来」。モデレーターは、ジョージタウン大学で社会的インパクトとイノベーションを教えるソナル・シャー氏が務めました。デジタル技術の発達とともに、経済や雇用はどう変わるのか、それに備えるために教育はどうあるべきか。トランプ新政権への切実な不安と懸念が入り混じり、白熱した議論となりました。20名強の参加者の大半がメキシコ出身で、若い社会人から、母国を飛び出し活躍する起業家、政府職員、人事専門家まで、立場は様々。新鮮だったのは、意見が対立し始めると、どこからともなく拍手が沸く、温かな対話の雰囲気。参加者の大半にとって英語は第二言語ですが、知らない言葉も自然と助け合います。現実の課題に対する各自の問題意識を持ち寄り、進歩とは、効率とは、幸福とは……、そんな価値をめぐる議論へと深まっていく瞬間には、アスペンらしい醍醐味とともに、多様性と一体感が感じられました。

＊

2017年10月には「小林メモリアル・ソクラテス・プログラム」として、日本で初めてのセミナーを開催いたします。モデレーターは、MITメディアラボ教授で、デジタル時代における生き方を真摯に見つめた『つながらない生活』の著者ウィリアム・パワーズ氏。ご興味ご関心のある方は、事務局までぜひお問い合わせください。

（日本アスペン研究所事務局 坂本・千葉）